

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

かわさき読書週間

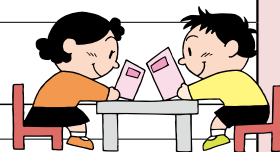
10月30日(日)～11月12日(土)

今年も各館様々なイベントをご用意しています。

ぜひ
お出かけ
ください!

2011「読書のまち」読書週間 企画

川崎図書館 大師分館 田島分館	10月23日(日)	川崎・大師・田島合同企画「おはなしキャラバン」 紙芝居・パネルシアター・てあそび・うたあそびなど 教育文化会館 イベントホール
	11月12日(土)	大人のための朗読会
幸図書館	10月29日(土)	大人のためのおはなし会 (ストーリーテリング)
	10月26日(水)	大きなおはなし会
	11月12日(土)	大人のための朗読会
日吉分館	10月27日(木)	読書ボランティア入門公開講座 赤木かん子「現代子どもの本事情」
	11月 6日(日)	子どものための秋のおはなし会～ストーリーテリング～
	10月22日(土)	絵本が聞こえる! (大人のためのおはなし会)
中原図書館	12月3日(土) ～12月5日(月)	なかはら子どもとしょかん本の森 絵本の読み聞かせ・絵本展示・ボランティア紹介展示ほか 中原市民館ギャラリー
高津図書館	10月23日(日)	秋のおたのしみ会 親子で科学の玉手箱 ー磁石で遊ぼうー
	10月29日(土) ～11月6日(日)	高津区の読書活動紹介展示 図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介ほか
	11月27日(日)	本の交換会
橘分館	11月11日(金) ～11月13日(日)	リユース本の配布・本の展示 等
	11月13日(日)	第7回どんぐり広場 読み聞かせボランティアどんぐり (紙芝居中心のおはなし会、おすすめ絵本の展示)
宮前図書館	10月21日(金) ～10月26日(水)	みやまえ読書の日 おはなし会・ぬいぐるみのおとまり会・ミニ講演・本の展示・図書館ツアー・ 人を育てる唄 身近なものでカンタン工作・カルタ会・本の病院・リユース本の配布 その他 宮前市民館ギャラリー・視聴覚室
多摩図書館	10月30日(日) 11月12日(土)	講座「遊びの中に、絵本の中に、自然のふしぎをみつけよう!」 多摩市民館第1会議室
	11月 8日(火)	第14回読書普及文化講演会「やさしさとおもいやり」 講師 江藤潤氏 (俳優) 多摩市民館大ホール
	10月22日(土) ～10月30日(日)	多摩区の読書活動紹介展示
	11月20日(日)	秋のおはなし会
	11月 6日(日) 11月13日(日) 11月26日(土)	多摩区郷土史入門講座 (稲田郷土史会との共催)
麻生図書館	10月12日(水)	秋の親子おはなし会
	10月28日(金)	大人の方楽しんでいただくためのおはなし会
	11月30日(水)	小学生以上のおはなし会
柿生分館	11月 2日(水)	科学えほんと工作のおはなし会
教育委員会指導課	11月 6日(日)	かわさき読書の日つどい 読書活動優秀団体 (個人) 表彰式 なかえよしを氏講演会「ねずみくんが見つめてきた大切なこと」 高津市民館大ホール



予告なしに変更する場合があります。詳しくは図書館ホームページや各館・担当課でお確かめください。

読書と映画



この春麻生区にオープンした「日本映画大学」の学長、佐藤忠男先生を講師にお迎えし、本（読書）と映画との関わりについて、「読書で得られるものと映画で得られるものは、どう違うか。その両方をどう活用すればいいか」というテーマでお話いただきます。

日 時：平成23年11月18日（金） 午後6時～8時

会 場：高津市民館 大会議室

申込み：10月22日（土） 午前10時から 各市立図書館・分館カウンターにて整理券を配布いたします。

問合せ：中原図書館（電話：044-722-4932）

※10月22日（土）午前10時から上記電話番号にて電話での申込みも受け付けいたします。

【講師紹介】佐藤忠男（さとう ただお）

1930年新潟生まれ。国鉄・日本電信電話公社などで勤務のかたわら1950年ころから雑誌に映画批評を発表する。1956年に初の著書『日本の映画』でキネマ旬報賞受賞。以後『映画評論』の編集にかかわりながら評論活動を行う。芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章をはじめ、日本やアジア各国で多数の賞を受賞。著書は100冊を超える。

川崎市では平成20年川崎市文化賞受賞。現在第4期の市民文化大使。

また、「日本映画学校」校長を経て今年4月に開校した「日本映画大学」の初代学長に就任。

第17回



このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。

第17回目は「映像のまち」をテーマに本を集めました。



A：『教育者・今村昌平』

今村昌平／著 佐藤忠男／編 キネマ旬報社

日本映画大学の前身、日本映画学校の創始者であり、「楳島節考」、「うなぎ」で二度のブルドールに輝いた映画監督今村昌平の教育者としての一面にスポットを当てる。

今村監督自身の著作や入学式でのあいさつ、講義抄録など。

A



B：『12歳からの映画ガイド』

佐藤忠男／著 小学館

映画評論の第一人者である著者が、「なんのために生きるか」「家族ってなんだろう」などの身近なものから「戦争ってなんだ」「アジアの広大な大地を知ろう」といった世界に目を向けたものまで50のテーマでお薦めの映画を4本ずつ紹介している。子どもにわかりやすい平易な文章で書かれていますが、大人が読んで楽しく、紹介されている作品を見てみたくなる1冊です。

B



C：『KAWASAKI LOCATION GUIDE ～川崎市ロケ情報誌』

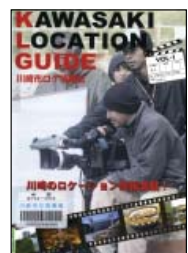
川崎市市民局シティセールス広報室／発行

なぜ川崎が映像のまちなの？川崎のロケ地としての魅力って？あの映画、ドラマのあのシーンも川崎だった！

「映像のまち」の取り組みと2008年の発行時のロケ情報がコンパクトにまとまっています。

（「映像のまち川崎」事業は現在シティセールス広報室から市民文化室に所管が変わっています）

C



シネマ&ドラマな図書館へようこそ

読書のまち・映像のまち連携事業実施中！

川崎市立図書館では今年度「映像のまち・かわさき」との連携企画を展開しています。日ごろ読書に親しんでいる方が映像作品に、映像（映画・ドラマ）ファンの方が読書によりいっそう関心を持っていただけるよう、読書普及講演会の他にも企画をご用意しておりますので足をお運び下さい。



① ロケパネルと原作本や映画関連本の展示

川崎市内でロケが行われたドラマ・映画のロケ風景パネル（NPO法人川崎ムーブアート応援隊所蔵）と、原作やノベライズ、映画関係図書などの資料を集めた特集コーナーを市内の図書館7館（分館を除く）で巡回展示（設置）します。

＊詳しい開催日程は各図書館（4ページ参照）へお問い合わせください。

②「かわさき シネマ&ドラマなブックガイド」の配布

映像作品とその原作やノベライズ図書を紹介するオリジナル冊子です。川崎が舞台の作品や川崎でロケが行われた作品、川崎ゆかりの方々が映像化された作品を取り上げています。各図書館のほか映像関連イベントなどでも配布しますので、気になった作品は是非「読んで」「観て」ください。

フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」



わが川崎のサッカーJ1チーム「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第7回目は、田中選手が選ぶ1冊を紹介します。

KAWASAKI
Frontale



『モウリーニョの流儀』 片野 道郎／著 【河出書房新社】 2009年刊

《あらすじ》

ヨーロッパの強豪サッカークラブを率いて結果を出し続ける名指揮官ジョゼ・モウリーニョ。

イタリア在住の記者である著者が世界が注目する知将のイタリアでの監督就任1年目を追ひ、いかにしてリーグ制覇を成し遂げたのか、その勝利への哲学を分析する。

*** 田中選手より ***

「自分が世界一の監督とは思わない。しかし私以上の監督がいるとも思わない。」

世界一の監督であるジョゼ・モウリーニョの本。常に結果を出す、男を感じるセリフにシビれました。



【DF3 田中裕介】

今季横浜F・マリノスから新加入したDF。最終ライン全てのポジションをこなす器用さを持ち、早くも不動の右サイドバックとして不可欠な存在に。

威力のあるミドルシュートも魅力。攻守に優れたバランス感覚は、ノンフィクションから食に関する本まで幅広く興味を持ち、貪欲に吸収しようとする姿勢からもうかがい知れる。

かわさき歴史めぐり (25)

徳川氏の関東入国と川崎市域－25－

法政大学名誉教授
村上 直

江戸時代の農間渡世について、さらに川崎市域の西北部をみていきますと、次のようになります。

末長村では「糸取、柴薪、縄、^{むしろおり}蓆織、^{こも}菰」、そして、上野川村では、「^む六布^ふ菰^{こも}仕立^{したてうり}売」(文政7年)です。馬絹村、長尾村では「縄・こも」(文政4年)、また、菅村では「男は江戸へ炭・薪など付出、^{かわり}替に^{しもこえ}下肥を調、^{くつ}馬がこれなきものは沓、^{わらじ}草鞋の類、^{あいこしらえ}相拵、女は木綿・布・麻類を手前着料程仕立」とあります。これによって男子と女子が別々に生業を営んでいたことがわかります。この点、岡上村の場合も「男は沓・草鞋、女は木綿糸・絹・飼蚕」(慶応4年)ともあります。

川崎市域の全域では明治初期の「村明細帳」を含めてみますと、農間渡世としては男子・女子はともに縄や菰、そして草鞋・木綿・布・絹・麻などを中心に生活が営まれていたということが出来ます。

この点、先にあげた、鹿島田村の農間渡世につきましては、『増上寺領鹿島田村^{かきあげ}大概書上』(文政7年)によりますと、「農業之間、男女共六布菰・糸菰織、江戸表へ売、又は尿持運、^{ただし}但、糸菰は上品、六布菰は下品の由、各^{たたみとこうら}畳床裏に相成候品にて、御料内外村々にても、右品相^{あいかせぎ}稼申し候」

とあります。これによりますと、一般の糸菰は上品であるのにたいし、六布菰というのは少し劣ったものであるということです。これは、畳床(畳で寝るところ)を製作するとき、菰を編むのに、糸を6本用いて束ねたものをいうので、6本を「ムフ」、4本を「ヨフ」、2本を「ニフ」と呼んだようです。つまり六布菰とは、畳の芯の部分が6本の糸を用いて編んだ菰のことをいうのではないのでしょうか。

いずれにしても、市域の村むらでは畳床の裏に用いるための菰稼ぎが行われていたといえます。江戸の城内や城下での畳の使用が、その下敷きのために必要になったといえます。

川崎市域の人びとは、糸菰や六布菰を江戸へ売りにでかけ、帰りは尿を運んで肥料にしていた場合が多くみられたようです。まさに稲毛米の産地と菰稼ぎ、野菜や果物を作っていた農村の人びとの様子が浮かんできますが、この地域が明治新政を経て、都市化するのは、大正・昭和期になってからということが出来ます。江戸時代の川崎市域は、江戸地廻り経済圏の形成により、俄かに村々の生活が変貌していったのではなかったのです。

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橋分館(788-1531)
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅覧所(946-3271)